Web Caster FT6000MS 追加機能説明書

A. 設定

本章では、Web Caster FT6000MS に追加された機能の設定方法について説明します。

[1] 接続設定（☞ 取扱説明書 p.35）

インターネットに接続するための設定を行います。

1 Web画面左側の設定メニューフレームの 接続 をクリックしてください。

操作フレームに接続設定画面が表示されます。

2 「本装置のPPP over Ethernet機能を使用して接続する(NATルータモード)」を選択してください。

3 以下の各項目について、ご加入のプロバイダから指定された情報を入力してください。

お知らせ

選択中のアカウントには、「PPPアカウント切替」の設定画面で選択されたアカウント番号が表示されます。本画面で入力された設定内容も、選択中のアカウントに表示されているアカウント番号に反映されます。

- ユーザID
- パスワード
- パスワードの確認入力
- PPPoE接続サービス名（オプション）
- PPPoE接続サーバ名（オプション）
- ADSL側IPアドレス／マスク長（追加機能）
  ADSL側のIPアドレスの設定方法を選択してください。通常は、「PPPによる取得」を選択してください。複数固定IPアドレスサービスをご使用の場合は、「指定する」を選択し、プロバイダから割り当てられたIPアドレスのうち、本装置が使用するIPアドレスとマスク長を入力してください。（プロバイダから、ルータに割り当てるように推奨されたアドレスを指定してください。）

お知らせ

プロバイダ様のサービスによっては、複数固定IPサービスをご利用できない場合があります。

4 設定 をクリックしてください。

機器の再起動を促す画面が表示された場合は、再起動を行ってください。

[2] PPPアカウント切替（追加機能）

複数のPPPアカウントをご使用の場合、あらかじめ複数のアカウントを登録し、必要に応じて切り替えて使用することができます。

1 メニューフレームのPPPアカウント切替をクリックしてください。

操作フレームにPPPアカウント切替の設定画面が表示されます。

2 使用するアカウント（1～4）の欄に表示されている各項目について、ご加入のプロバイダから指定された情報を入力してください。ご使用になりたいプロバイダ全てをご登録ください。最大4件まで登録することができます。（設定内容については、取扱説明書の「4-1 接続設定」（☞ p.35, p.36）および、本資料の[1] 接続設定をご参照ください。）

3 ご使用になるアカウントのラジオボタンを選択してください。

4 設定 をクリックしてください。

お知らせ

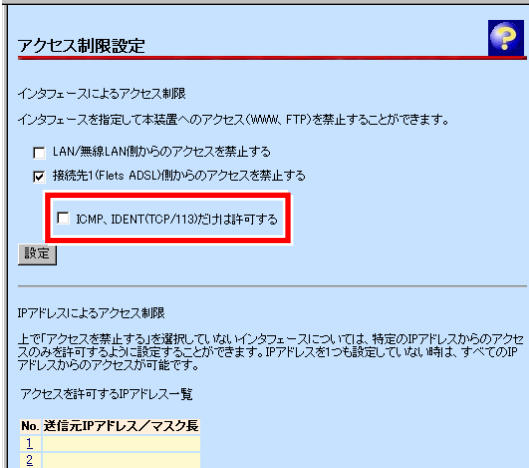
PPPアカウントの切替のみを行った場合は、機器の再起動やADSLリンクの再接続の必要はありません。

ただし、パソコンに割り当てられるDNSサーバアドレスは自動的に更新されません。そのため、PPPアカウントを切り替えて「フレッツ・スクウェア」をご利用される場合は、取扱説明書の「6-1 LAN設定」－「③DHCP設定」の「6 配送DNSサーバアドレス設定」（☞ 取扱説明書 p.52）を「自動」に選択した上で、パソコンの再起動や、IPアドレス情報の再取得などの操作を行うことによって、DNSサーバアドレスを更新する必要があります。（☞ 本資料の「付録．パソコンのIPアドレス情報の更新」）

[3] アクセス制限設定（☞ 取扱説明書 p.41）

設定や管理を行うためのアクセスを制限することができます。

1 メニューフレームの アクセス制限 をクリックしてください。

操作フレームにアクセス制限設定画面が表示されます。

2 チェックボックスをクリックしてアクセスを禁止するインタフェースを選択してください。

Web Caster FT6000MSのLAN側、ADSL側接続先からのアクセスを制限します。チェックボックスをクリックしてアクセスを禁止するインタフェースを選択してください。

「ICMP、IDENT(TCP/113)だけは許可する」のチェックボックスをクリックすると、アクセス禁止に設定したインタフェースからのアクセスであっても、ICMP Pingに応答します。また、TCP 113番ポートを使用するIdentification Protocolの接続要求に応答することができます。（追加機能）

お知らせ

インターネット上の一部のサーバに対するアクセスを行った時に、データが送られてくるまでに10～30秒程度待ち時間が発生することがあります。このような場合に、「ICMP、IDENT(TCP/113)だけは許可する」のチェックボックスをチェックすると現象が改善することがあります。（この時、IPフィルタ設定の「外部装置から開始されるTCPセッションを遮断」のチェックもはずす必要があります。（☞ 取扱説明書 「5-3 通過するパケットを制限する」p.42））

お願い

本チェックボックスをチェックすることで、外部からのICMPによるアクセスも可能になります。ICMP Pingにより使用中のIPアドレスを確認され、不正な攻撃を受ける可能性もありますので、当該機能のチェックは必要に応じて行ってください。

3 設定 をクリックしてください。

インタフェースによる制限の設定が保存され動作に反映されます。

[4] IPフィルタ設定（☞ 取扱説明書 p.42, p.69）

以下の制約事項を追加しました。

お願い

[外部装置から開始されるTCPセッションを遮断]をチェックする場合、NATアドレス変換設定のワンタッチ設定のうち、いずれかの設定がされていると設定エラーになります。[外部装置から開始されるTCPセッションを遮断]をチェックする場合は、あらかじめNATアドレス変換のワンタッチ設定を削除してください。（☞ 取扱説明書「6-7-1 NATアドレス変換設定」p.77～p.79、および、本資料の [5] NATアドレス変換設定 をご参照ください。）

[5] NATアドレス変換設定（☞ 取扱説明書 p.77）

WWWサーバやFTPサーバを外部（インターネット）に公開する場合や、外部からのパケットをすべて特定のパソコンに転送する場合については、IPアドレスを指定するだけで設定できるようになっています。（ワンタッチ設定）

1 メニューフレームの NATアドレス変換 をクリックしてください。

操作フレームにNATアドレス変換設定画面が表示されます。

NATアドレス変換設定

NATテーブルの静的登録ができます。IPアドレスの変換のみを行い、ポート番号の変換を行わない場合に使用します。

ワンタッチ設定

□ WWWサーバを外部に公開する（No.1を使用）

WWWサーバのIPアドレス

□ FTPサーバを外部に公開する（No.2、No.3を使用）

FTPサーバのIPアドレス

□ 外部からのパケットをすべて特定ホストに中継する（No.4を使用）[セキュリティに注意]

特定ホストのIPアドレス

□ Windows Messengerを使用する（No.30～32を使用）

使用するパソコンのIPアドレス

設定

設定内容を変更または削除するには、番号をクリックしてください。
設定を追加するには、空欄の番号をクリックしてください。

No.	優先度	接続先の名称	LAN/無線LAN側IPアドレス	ADSL側IPアドレス	プロトコル	ポート番号
1						
2						

2 ワンタッチ設定の各項目のうち、設定を行う項目のチェックボックスをチェックしてください。

お願い

ワンタッチ設定を行う場合に、「IPフィルタ設定」の[外部装置から開始されるTCPセッションを遮断]にチェックがしてあると設定エラーになります。ワンタッチ設定を行う場合は、あらかじめ[外部装置から開始されるTCPセッションを遮断]のチェックをはずしてください。（☞ 取扱説明書 「5-3 通過するパケットを制限する」p.42, p.43、および、「6-6 IPフィルタ設定」 p.69, p.70）

- WWWサーバを外部に公開する
- FTPサーバを外部に公開する
- 外部からのパケットをすべて特定ホストに中継する
- Windows Messengerを使用する(追加機能)
  Windows Messengerを使用するパソコンのIPアドレスを入力してください。

お願い

本項目で設定されていないパソコンからも、Windows Messengerへのサインインを行い、「インスタントメッセージ」、「音声チャット」、および、「ビデオチャット」を使用することができます。

お知らせ

「リモートアシスタンス」のなかの「会話機能」はご使用できません。

お願い

本装置を使って一度にサインインできるのは1台のパソコンのみです。そのため、あるパソコンでWindows Messengerにサインインしている時に、他のパソコンでWindows Messengerを使用するためには、現在サインインしているパソコンからサインアウトする必要があります。

お知らせ

本ワンタッチ設定は、NATアドレス変換の個別設定のNo.30～No.32のテーブルを使用します。本設定を使用すると、当該個所の設定は上書きされます。

3 設定 をクリックしてください。

設定内容が保存され、反映されます。

NATアドレス変換の個別設定における設定項目の追加

取扱説明書の記述（設定可能な項目）が以下のように変更になります。(☞ 取扱説明書「6-7-1 NATアドレス変換設定」p.80, p.81）

1 設定を行う 数字 をクリックしてください。

⑤ 変換対象となるプロトコルを次から選択してください。

＜変更前＞

・TCP　・UDP
・TCPとUDP両方　・全プロトコル

＜変更後＞

・TCP　・UDP　・TCPとUDP両方
・ICMP　・GRE(Generic Routing Encapsulation)
・全プロトコル(占有)　・全プロトコル(共有)

お知らせ

「全プロトコル（占有）」を指定した場合は、設定したアドレス以外のパソコンはインターネットへのアクセスができなくなります。
「全プロトコル（共有）」を指定した場合は、外部からのアクセスは設定されたアドレスのパソコンのみ可能ですが、設定したアドレス以外のパソコンからもインターネットへのアクセスを行うことができます。

B．情報の参照

本章では、Web Caster FT6000MS に追加された情報の参照方法について説明します。

[1] 機器状態・ログ（☞ 取扱説明書 p.88, 89）

ADSL 回線状態が「通信中」になったとき、ADSL 接続時の回線スピードも表示されます。

お知らせ

ADSL回線スピードで表示される速度は、実際のスループットとは異なります。

[2] NATテーブル（☞ 取扱説明書 p.92）

NATテーブルに、NATエントリの登録件数および最大登録件数の表示を追加しました。

1 メニューフレームから、NATテーブル をクリックしてください。

- 現在の登録件数（追加機能）
  現在NATテーブルに記憶されているNATエントリの件数／最大登録件数が表示されます。

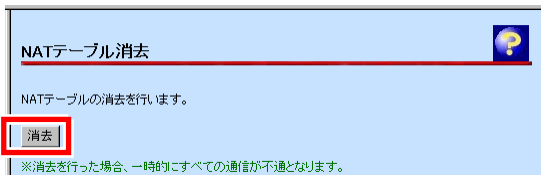
C．保守機能

本章では、Web Caster FT6000MS に追加された保守機能について説明します。

[1] NATテーブル消去（追加機能）

NATルータモードを選択している時は、NATエントリは1024件まで自動的に登録されます。（現在のNATテーブル登録件数を確認したい場合は、NATテーブル表示画面より確認してください。）1,024件を超えてNAT変換を行った通信はできません。この場合は、NATエントリを消去することにより、新しい通信ができるようになります。

1 メニューフレームから、NATテーブル消去 をクリックしてください。

操作フレームに、NATテーブル消去画面が表示されます。

2 消去 をクリックしてください。

お願い

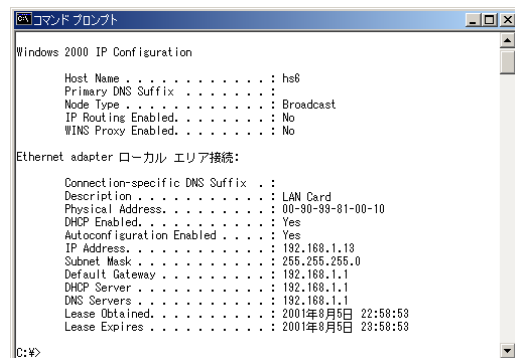
NATテーブル消去を行うと、これまでに記憶されていたNATエントリはすべて消去され、一時的にすべての通信ができなくなります。

付録．パソコンのIPアドレス情報の更新

本章では、パソコンに割り当てられたIPアドレス情報（使用中のDNSサーバアドレス）の更新方法について説明します。

[1] Windows　ME/98/95（☞ 取扱説明書 p.27）

「winipcfg」の画面から、[すべて解放(A)]→[すべて書き換え(M)]の手順で更新してください。（使用中のDNSサーバアドレスは、[詳細(M)>>]ボタンを押して確認してください。）

[2] Windows　2000/NT/XP（☞ 取扱説明書 p.28）

コマンドプロンプトから、「ipconfig /renew」のコマンドを実行してください。

[3] Macintosh（☞ 取扱説明書 p.29, p.30）

コマンドを使ってIPアドレス情報を更新することはできません。Ethernetケーブルを抜き差しするか、パソコンの再起動を実施してください。（DNSサーバはネームサーバもしくはドメインネームサーバとして表示されています。）

お詫びと訂正

Web Caster FT6000MSの取扱説明書(☞ 7-2 機器状態・ログ p.90)に以下の誤りがありました。ご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、以下のとおり訂正させていただきます。

[誤]

お知らせ

最大**2000件**までのログが蓄積されます。
2000件を越えると、古いものから順に削除されます。

[正]

お知らせ

最大**200件**までのログが蓄積されます。
200件を越えると、古いものから順に削除されます。